第６１０回建設技術講習会 現場研修事業の概要

１　景観まちづくりプロジェクト事業「外宮前地区」

……　伊勢市本町

三重県では、これまで県が中心となって進めてきた事業手法を見直し、“まちづくりは地域住民が主体となって市町と協働で進めるものである”という理念のもと、地域住民と市町との協働による景観まちづくりを県が支援していく方向で事業を進めることとした。三重県を代表する「伊勢志摩地域」では、観光客が減少してきたこともあり、景観まちづくりプロジェクトの整備を進めることとなった。全国の成功している観光地と比較すると、良好な景観やまちなみを形成している観光地が成功しているところが多く、同様に景観やまちなみを形成していくことが必要であった。この事業では、伊勢志摩を重点地域として、空間快適性を向上させ、観光客が訪れたくなるまち、住民が誇れるまちを住民と行政の協働により実施していくこととした。今回整備した外宮前地区は、ＪＲ伊勢市駅から豊受大神宮（外宮）へとつながる外宮参道の沿道商店街で、各種店舗や住宅などが混在している地域で、伊勢志摩快適空間創造事業において、住民と行政が協働でとりまとめた「まちなみまちづくり提言書」にもとづき、まちづくりプロジェクト事業に引き続いて修景整備を実施することとなった。外宮前の県道伊勢市停車場線の修景整備にあたっては、車道と歩道の石張り舗装によるフラット化、雰囲気のある照明灯の設置など、住民と行政が協働で修景整備計画案の作成に取り組み実施された。修景整備工事は、平成19年度から検討してきた計画案にもとづいて、平成20年度に完成した。

２　宮川床上浸水対策特別緊急事業

……　伊勢市（中島・大倉地区等）

三重県中南部では、平成16年９月の台風21号で１時間に100㎜を超える雨が降り、総雨量約1,000㎜に達する地域もあり、記録的な豪雨となった。宮川では最大時間雨量119㎜を記録し、宮川右岸に位置する伊勢市中島二丁目地内から同市佐八町字中瀬地内までの区間では、堤防が未整備であったことに加え、河道の流下能力が低かったこともあり、宮川の水位上昇による溢水により、床上浸水114戸、床下浸水45戸、浸水面積37.1haにも及ぶ甚大な浸水被害が発生した。そのため、平成18年度から「宮川床上浸水対策特別緊急事業」として、総合的な治水対策を重点的に進め、床上浸水被害の解消及び地域の安全・安心の確保を図ることとした。宮川では、堤防が未整備となっていた区間において堤防を整備するとともに、宮川への流入支川及び排水路において必要となる樋門・樋管を設置、洪水を計画高水位以下で安全に流下させるための河道掘削を実施した。その結果、平成23年９月の台風12号による出水では、浸水被害が大幅に解消された。

３　近鉄川原町駅周辺整備事業（連続立体交差事業等）

……　四日市市西町他

近鉄川原町駅周辺は、新名神高速道路などの広域交通網と市街地とを結ぶ国道477号や国道１号など主要な道路が通過する交通の要所となっている。近年では、駅周辺地域において住宅開発や大規模商業施設の立地に伴う交通量の増大による渋滞や踏切事故の発生などの問題が顕著となり、連続立体交差事業とそれにあわせた道路整備を進めることとなった。また市内を東西に流れる三滝川は重要な河川であり、豪雨や高潮による洪水災害を防ぐため、順次河川改修事業を進めており概ね完成していたが、可積阻害区間である近鉄橋梁付近の整備が進んでおらず、早期実現が懸案となっていた。このため、三重県では、国、四日市市、鉄道事業者及び地域住民と協議・調整を進め、連続立体交差事業、河川改修事業及び道路改良事業を基本事業とした「近鉄川原町駅周辺総合整備事業」を施行し、平成19年に近畿日本鉄道㈱協定を締結、事業施行区分等を定め、事業を実施している。